



難治性血液疾患に対する 最高水準の医療

当科では、疾患や患者背景によらず、すべての患者さんに治癒をめざした医療の提供を目標としている。造血器腫瘍に対し、分子レベルでの病態解析に基づいて最適な治療を選択し、実施している。また、化学療法、放射線療法に幹細胞移植を中心として細胞療法を積極的に組み込むことで、治療成績の向上をめざしている。具体的な取り組みは以下の通りである。

- ① 同種造血幹細胞移植を中心とした、造血器腫瘍に対する根治的先進医療
- ② 新規治療薬を活用した、造血器腫瘍に対する治癒をめざした治療の開発
- ③ 成人T細胞白血病など標準的治療法のない造血器腫瘍に対する新規治療法の開発

代表的診療対象疾患

急性骨髄性白血病・急性リンパ性白血病・慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性疾患・骨髄異形成症候群・悪性リンパ腫（ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫）・多発性骨髄腫・成人T細胞白血病・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病・発作性夜間血色素尿症・凝固異常症・ユーイング肉腫など化学療法感受性の固形腫瘍・HIV感染症

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

基本的にはすべてのスタッフがあらゆる造血器疾患を診療しているが、主な疾患については、専門外来を設けて患者さんや地域の先生方にもわかりやすい体制を整えた。2012年度までに、骨髄異形成症候群・造血不全、形質細胞腫瘍、成人T細胞性白血病、悪性リンパ腫、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、造血幹細胞移植、HIV感染症の8つの専門外来がスタートしている。

2013年度の1日平均外来患者数は64人で、初診率は4.6%、紹介率は92.9%であった。2003年に外来化学療法部が開設され、悪性リンパ腫に対する標準的な化学療法を中心として骨髄抑制が高度でない治療を外来で施行し、入院期間の短縮、入院患者総数の増加に寄与している。2013年度は84人の新患を紹介し、900件以上の化学療法を外来で施行した。また、同種造血幹細胞移植に関しては、ドナー専門外来を設置し、ドナーの安全性を十分確保する体制を敷くと同時に、2012年7

月より移植後フォローアップ外来を設置し、病棟看護師による移植後患者の重点的ケアを行っている。2008年よりエイズ中核拠点病院となり、HIV感染症専門外来を設置している。

入院診療体制と実績

造血器疾患を対象に診療する科としては、46床という国内でも有数の病床数を有している。2013年度の延べ入院患者数は373人、平均在院日数35.3日、病床稼働率は95.6%であった。特に、同種移植を34回、自家移植を9回と、造血幹細胞移植を積極的に行っている。

臨床研究の取り組み

多様な臨床試験を推進

臨床試験としてミニ移植（非骨髄破壊的同種造血幹細胞移植）を2000年から2013年末まで209件施行し、標準的医療として確立している。多くの関連病院と協力し、2012年よりベンダムスチンを用いた悪性リンパ腫に対する臨床試験（BRサルベージ試験）、2013年よりボルテゾミブを用いた多発性骨髄腫に対する臨床試験を多施設共同臨床試験として行っている。また、2013年より日本成人白血病治療共同研究グループ（JALSG）、日本造血細胞移植学会、および日本細胞移植研究会（JSCT）による多施設共同臨床試験に参加している。

＊フルダラビンを用いた非骨髄破壊的同種造血幹細胞移植による難治性造血器悪性腫瘍の治療 209件

＊再発又は難治性CD20陽性低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫およびマントル細胞リンパ腫患者を対象にしたベンダムスチン、リツキシマブ併用療法の有効性と安全性の検討：臨床第II相試験（BRサルベージ試験） 40例

他にも治療研究や多施設共同臨床研究に積極的に参加している。